

- 1 春や昔隕石（めてお）が龍を塵（みなごろし）
 2 精神の廣大無邊を田螺倦む
 3 龜鳴くや氣海（えーてる）を旅（ゆ）く時間の矢
 4 白梅の捻れびらきや氷りつつ
 5 梅咲くや僧叱られて快樂顔
 6 轉や翠ときをり紅に
 7 戀猫と一萬圓と似非易者
 8 鶯や頬に谷造（な）す涙川
 9 鳶湖上雨と疑ふほど霞む
 10 蝶も夢老子も夢やウキスキイ
 11 屍てふもの使途（つかひみち）なし春の晝
 12 山に憑く春夕焼や壺に味噌
 13 啓蟄や火星にも地震あんなりと
 14 君が居にいつも虻をり名與へむ
 15 耳は貝卒業式を少し寝て
 16 學位記や夜櫻樹下に一人酌み
 17 折紙の禽獸に春闌けにけり
 18 情慾や空に花粉の河のあり
 19 百千鳥佛像の魔羅淺く勃ち
 20 水の世に椿童子と愛し合ふ
 21 英語讀本（りーだー）に冒險譚や燕
 22 星や風算（よ）み旅（ゆ）くつばめつばくらめ
 23 峠にて朝寢夕寢や團子と茶
 24 太陽も鬱どきなりや籠の雉
 25 囁（つつめ）きは口唇（くち）の快樂ぞ鬱金香（ちゆうりつぶ）

26 見えてゐぬ虹の氣配が明敏（あから）さま
 27 あひ觸れあはず薔薇の蝶風の蝶
 28 蠶豆の笑まひて跳躍（と）ぶを幻視（そらみ）たり
 29 夏筍を提げ人様の夢に出る
 30 苔龜も花咲く頃か逢ひに來よ
 31 ピアノとは誰れが棺か晝螢
 32 在廊の畫家のはにかむ金魚かな
 33 短夜や繪の中へ逃げ繪盜人
 34 死穢溜めて都市美しや水母の觸手（て）
 35 戀文も文字化けの禍や竹簾
 36 赤鱗や海にもありて飄（つむじかぜ）
 37 前（さき）の世を忘卻（わす）れ風鈴として鳴る
 38 金魚來よ圖書室守の頬杖に
 39 松風や夢も現も紙魚太り
 40 鯖壽しの鯖釣る夢も百日目
 41 冷茶（あいすてい）味濃く出たりフス火刑
 42 草いきれハイデツガーは壽（いのちなが）
 43 虹鱒を釣らば虹さう信じるき
 44 樺一樹四方雲海の照り返し
 45 杉越しの日輪太り夏燕
 46 水へこみあり水馬の脚の先
 47 ひまはりの長はなびらの先の蟻
 48 湖國にて晝寢の神となりにけり
 49 一と夏の無爲のうれしき火星かな
 50 おもへらく猓も夢みむ夏大根

- 51 うつつ食ふ猯は殺さむ西瓜糖
- 52 月光（つきかげ）を織り布（し）く路をよぎる猫
- 53 かの眠猫（ねむりねこ）へ月の手夥（おびただ）し
- 54 土葬して川輝くや西瓜村
- 55 水澄みてをりけり犬のちんぽこ朱
- 56 鈴蟲や君が寢部屋に樂譜山
- 57 秋蟬や金色ならむ佛陀の屁
- 58 水澄みて毛澤東の廣額
- 59 かの山の大山芋を褒め疲れ
- 60 佛映畫颯風の夜をもて餘す
- 61 秋薔薇や肛門恍（くわう）として開く
- 62 窗邊とは光の渚小鳥來る
- 63 電話魔も魔ものとおもへ秋晝寢
- 64 蠅螂の俱喰癖に博士號
- 65 星の夜の確率に牌起し伏す
- 66 流星の冷たく火（も）えて土龍の死
- 67 寶なく古墳安けし赤蜻蜓
- 68 夕暮や鶉溶けたる潦（にはたづみ）
- 69 月光に折皺なけれノオトに詩
- 70 神以前無なりけり夜の翳雲
- 71 鳥渡る地球に人は放飼
- 72 木犀や馬にもありて涙癖
- 73 釣り上げしそばから鯊を蔑
- 74 とろろ面（も）に醤油浮くなり球のまま
- 75 夜の阿蘇山（あそ）とろろ泡噴（あぶ）くは音も無し

- 76 水徐々に冬や鏡も像緊（し）めて
- 77 もいちど來よ凧サアカス獸連れ
- 78 やまあらし親密（なかよ）し冬の遠暴風雨（とほあらし）
- 79 百貨店（でぱーと）の柱の巻貝（かい）よ雪豫報
- 80 月の光暈（はろ）凍てつき猫の艶天與
- 81 納豆の絲に納豆ぶら下がる
- 82 納豆の泡噴きをり飯に載せしのちも
- 83 糞（ま）るうちに時雨廁となりにけり
- 84 積讀の幾斜塔爲す寒下宿
- 85 自慰すれば部屋の醜禽寒く哭く
- 86 原發の電氣を消費（つか）ふ炬燵かな
- 87 三島忌やパンツの中へ幾夢精
- 88 蒙古斑沖の鯨と交感す
- 89 暗渠都市終日（ひねもす）くぢら廻流（めぐ）りるむ
- 90 マント被り紅海渡渉する列へ
- 91 いつぞやの蒼彗星も古日記
- 92 初空をゆくキルスにも旅情（たびごころ）
- 93 人棲めば有穢や凍蝶旅團なす
- 94 日が氷りつつ差しゐたり籠（こ）に雲雀
- 95 言語野の太虚（そら）氷るなり禽（とり）の影
- 96 枯蘆や思惟が星座を造形（つく）りあげ
- 97 輕雪蟲重雪蟲よ觸れ飛べる
- 98 寂漠が星辰（ほし）に窮理（きは）まり枯木原
- 99 冬の僧獨り星閒徒涉（かちわた）る
- 100 僧乗せて飛ぶ座蒲團（ざぶ）のあり冬銀河